

週報

日本キリスト教団

みなみやま

南山教会

<年間聖句>

「それから、イエスは言われた。『全世界に行つて、すべての造られたものに、福音を宣べ伝えなさい』(マルコによる福音書16章15節)

<年主題>

一人がひとりを教会へ



Since 1947. 8. 1. 創立72周年

〒470-0111
愛知県日進市米野木町南山983-16
(愛知牧場内)

牧師 村山盛芳
伝道師 本間優太

TEL 0561-73-6781 FAX 0561-76-3005
教会メールアドレス minamiyama@mb.ccnw.ne.jp
HP www.mb.ccnw.ne.jp/minamiyama/

先週の説教より

「神はこのような人をも受け入れられた」 ローマの信徒への手紙14章1節～9節

ローマの信徒への手紙14章は、ローマの教会の人々に最後に伝えたいパウロのメッセージが書かれた箇所です。その所でパウロは何を伝えたかったのか。それは、同じ教会の中にある様々な考えを持つ人々が、どのように互いに関わっていけばいいのか、という、今日の教会においても全く色あせない問題を最後に取り上げました。14章1節や2節では「信仰の弱い人」という言葉が出てきました。これを読むなら、肉を食べない人は食べる人よりも信仰の点で劣っているような印象を受けてしまいますが、そうではなく、ここはより正確に訳すなら「信仰によってできない人」と書かれているのであり、すなわち、食べる人も、食べない人も両者が共に信仰が理由でそうしているのであってパウロはそのどちらが優れているかということについては特段言及してはいないのです。このようなことは現代の教会の中でも、度々起こります。すなわち、食べ物や飲み物だけに限っても、教会の中でそれを出すべきか、あるいは出さぬべきかということについて、確かにそのことについては聖書に直接書かれていませんが、ある人は教会の秩序の事を考えて、間接的に聖書と結びつけ出さないほうが良いと考えますし、他の人はそこを結び付けないから、出してもいいと考える。結果、お互い裁き合うような、そんな状況が起こってしまうのです。

では、パウロはこのような状況が現れているローマの教会の人々に何を語っているのでしょうか。パウロは、神様の元にある自由を大切にしました。しかし、その一方でその自由を使って他者を躓かせることもしてはならないとパウロははっきりと語っています(14章20節)。このように、見ていくならば、私たちがキリスト者としてどのように行動しなければならないのかというキリスト者の倫理基準も次第に見えてきます。すなわち、私たちは今自分が置かれている状況をよく見て、自分の自由と相手を罪に誘う事の間に立ちながら、その中で各々が神の前で信仰の決断をしなければならないということです。しかし、私たちは全くゼロからその決断を迫られているのかというとそうではありません。なぜなら、私たちには、神の送ってくださった独り子、イエス・キリストがいるからです。このイエス・キリストこそが、私たちの決断の模範となるのです。

(本間優太伝道師)

聖書臨読節第1576号

司会 齋藤 善久
奏楽 山田 誠子氏

- 前奏
- 頌栄 119 (天のみ民も)
- 主の祈り
- 交読詩編 115編 15～15節 (115編)
- 讚美歌 118 (「心を高くあげよー」)
- 聖書 120の1の信徒への手紙1
11章7節～15節 (新115編)
- 祈り
- 讚美歌 566 (むくろを離れよ)
- 信仰告白 (使徒信案)
- 説教 「伝道者の語り」
- 祈り 村山盛芳牧師
- 今週の誕生者のための祈り
- 讚美歌 513 (主は命を)
- 献金 6511
- 派遣 91 (神の恵みゆたかに取む)
- 祝詞
- 後奏

… 報告 …

高齢の方や体調がすぐれない方は、お座りの
お席で構いません。共に礼拝しましょう。